

研究成果の紹介

グラウンドカバープランツのマット化有望種

農業研究部園芸グループ

1. 成果の内容

景気低迷により、生産が減少傾向にある植木産業の活性化を図るため、新規商品としてマット植物(根域をマット状にした緑化植物:写真)の開発に取り組んでいます。

マット植物は、早期緑化・景観形成、屋上緑化への利用、土壌エロージョンの防止、雑草発生防止など施工及び維持管理面で多くのメリットを有すると考えられています。

そこで、本県で生産の多いグラウンドカバープランツ98種の中から、用土厚3cmの栽培条件下におけるマット形成能力を常緑性、病害虫耐性、被覆速度(被覆率80%到達速度)、引張り強度及び落下試験による用土保持率を評価基準に適否判定を行い、木本9種、草本14種、シダ類2種、タケササ類1種、多肉植物2種の計28種をマット化有望種に選定しました。

引張り強度は、マット植物を垂直に持ち、前後に振る動作で切断しない10kgf以上を基準に、また、落下試験による用土保持率は、1mの高さから水平に3回落下させる試験で95%以上の用土保持率を基準に設定しました。

2. 技術の適用効果と適用範囲

特にコンテナ植木(ポット植木)生産農家で利用

しやすい技術です。本県で生産の多いグラウンドカバープランツの新規商品として高付加価値化が期待できます。

3. 普及・利用上の留意点

試験では縦横25cm、深さ3cmの専用トレイ容器を使用しましたが、水稲育苗箱の利用が可能です。

有望種以外の根域発達が劣るグラウンドカバープランツは、根域補助資材等の利用により、マット植物として利用が可能です。

(内山達也)



表 1 マット化有望種 1999-2000

| 供試植物 | 科名 | 分類 | 特徴 |
|------------|--------|----|-----|
| サギナ | サギナ | 草本 | 低草本 |
| ヘロニカルベンス | ゴマノハグサ | 草本 | 低草本 |
| ホラシロ | ホングウシダ | シダ | 耐陰性 |
| イノモト | イノモト | シダ | 耐陰性 |
| シマカスゲ | シマカスゲ | 草本 | 斑入り |
| チシマタンポポ | キク | 草本 | 被覆早 |
| コクチナシ | アカネ | 木本 | 芳香花 |
| ハマヒサカキ | ツバキ | 木本 | 耐潮性 |
| タスマニアビオラ | サクラソウ | 草本 | 開花長 |
| キンシバイ | オキリソウ | 木本 | 黄色花 |
| メキシコマンネングサ | ベンケイソ | 多肉 | 耐乾性 |
| モリムラマンネングサ | ベンケイソ | 多肉 | 耐乾性 |
| ブルーデージー | キク | 草本 | 青色花 |
| リシマキア・ヌムリ | サクアソウ | 草本 | 黄色花 |

表 2 マット化有望種 2000-2001

| 供試植物 | 科名 | 分類 | 特徴 |
|-----------|---------|----|--------|
| グレコマ | シソ | 草本 | 芳香 |
| イキジャコウソウ | シソ | 草本 | 芳香 |
| シルバードラゴン | ユリ | 草本 | 斑入り |
| ウツボグサ | シソ | 草本 | ピンク、紫花 |
| イワダレソウ | クマツヅラ | 草本 | 被覆早 |
| シルバータム | シソ | 草本 | 芳香 |
| ブルーハシフィック | ヒノキ | 木本 | ユニファー |
| コネアスター | バラ | 木本 | 紅葉 |
| ロッセラ・ニダ | スイカズラ | 木本 | 紅葉 |
| グラウカ | ヒノキ | 木本 | ユニファー |
| ピンク・マジョール | キョウチクトウ | 草本 | つる性 |
| チゴザサ | イネ | ササ | 斑入り |
| バーバー | ヒノキ | 木本 | ユニファー |
| イワナンテン | ツツジ | 木本 | 紅葉 |